

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	防疫用消石灰確認試薬 ライムチェック
供給者の会社名称, 住所及び電話番号	:	
会社名称	:	東洋濾紙株式会社
住所	:	東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル5階
担当部門	:	品質保証部
電話番号	:	03-5521-2176
FAX番号	:	03-5521-2177
メールアドレス	:	trk-hinsho@advantec.co.jp
推奨用途	:	消毒剤の有効性確認
使用上の制限	:	上記以外の用途にご使用される場合は、事前にご相談ください。



## 2. 危険有害性の要約

## 化学品のGHS分類

物理化学的危険性 : 引火性液体 (区分3)

(本製品はエタノール、イソプロピルアルコール、ノルマルプロピルアルコールを配合しているが、アルコール濃度は60%未満なので、消防法 危険物 第4類 アルコール類には該当しない。)

## 健康に対する有害性

(本製品はエタノール、イソプロピルアルコール、ノルマルプロピルアルコールを配合しており、アルコール配合品としての健康に対する有害性のGHS分類を記載する。)

- : 目に対する重篤な損傷性/目刺激性 (区分1)
- 発がん性 (区分1A)
- 生殖毒性 (区分1A)
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分2 (中枢神経、腎、全身)  
区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1 (肝)  
区分2 (血液、神経)

(注) 記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

## GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語	:	危険
危険有害性情報	:	引火性の液体および蒸気 重篤な目の損傷 発がんのおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 臓器 (中枢神経、腎、全身) の障害のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ、または 眠気またはめまいのおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器 (肝) の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（血液、神経）の障害のおそれ

注意書き	安全対策	<p>： 使用前に取扱説明書を入手すること。          全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。          熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。          環境への放出を避け、容器を密閉しておくこと。          粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。          取扱後は手洗い、うがい等を行うこと。          この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。          屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。          保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。          指定された用途以外には使用しないこと。</p>
応急措置	<p>： 火災の場合：適切な消火剤を使用すること。          漏洩の場合：速やかに適切な方法で回収すること。          気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。          ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。          吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。          皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を水で洗うこと。          目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。          目の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。          飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。          汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。          皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。</p>	<p>： 容器を密閉して涼しく換気の良いところに置くこと。          施錠して保管すること。</p>
保管	<p>： 内容物、容器を地方、国の規則に従って廃棄すること。</p>	<p>： 廃棄</p>

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別物質	<p>： 混合物</p>	
成分及び含有量	<p>： ニュートラルレッド 0.16～0.19wt%          チモールフタレイン 0.26～0.30wt%          くえん酸一水和物 0.98～1.18 wt%          くえん酸三ナトリウム二水和物 2.00～2.32 wt%          エタノール 35.44～40.47wt%          イソプロピルアルコール 0.045～2.43wt%          ノルマルプロピルアルコール 1.97～4.84wt%          水 51.05～56.73wt%</p>	
化学式または構造式	<p>： ニュートラルレッド <math>C_{16}H_{17}ClN_4</math>          チモールフタレイン <math>C_{28}H_{30}O_4</math>          くえん酸一水和物 <math>C_6H_8O_7 \cdot H_2O</math>          くえん酸三ナトリウム二水和物 <math>C_6H_5Na_3O_7 \cdot 2H_2O</math>          エタノール <math>CH_3CH_2OH</math></p>	

		イソプロピルアルコール	CH <sub>3</sub> CH(OH)CH <sub>3</sub>
		ノルマルプロピルアルコール	CH <sub>3</sub> (CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> OH
		水	H <sub>2</sub> O
CAS番号	:	ニュートラルレッド	553-24-2
		チモールフタレイン	125-20-2
		くえん酸一水和物	5949-29-1
		くえん酸三ナトリウム二水和物	6132-04-3
		エタノール	64-17-5
		イソプロピルアルコール	67-63-0
		ノルマルプロピルアルコール	71-23-8
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	:	ニュートラルレッド	化 — 安 —
	:	チモールフタレイン	化 — 安 —
	:	くえん酸一水和物	化 (2)-1318 安 —
	:	くえん酸三ナトリウム二水和物	化 2-1323 安 —
	:	エタノール	化 2-202 安 —
	:	イソプロピルアルコール	化 (2)-207 安 2-(8)-319
	:	ノルマルプロピルアルコール	化 (2)-207 安 —

4. 応急措置

- 吸入した場合 :

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
医師の診察、手当てを受けること。  
気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 :

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水、シャワーで洗うこと。  
医師の診察、手当てを受けること。  
皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合は医師の診察、手当てを受けること。
- 眼に入った場合 :

水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
医師の診察、手当てを受けること。  
目の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 :

口を水ですすぐこと。  
この液体は肺に入ると化学性肺炎の危険が増すので、吐き出させてはならない。  
医師の診察、手当てを受けること。  
気分が悪いときは医師に連絡すること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 散水、噴霧水、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤など  
使ってはならない消火剤 : 棒状注水  
散水によって火災が広がるおそれがある場合には、  
上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤  
を利用すること。
- 特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退去させる。  
漏えいした場合、着火源を除去すること。
- 消火を行う者の保護 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 関係者以外は近づけない。  
適切な保護具を着用する。  
眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
着火源を取除くとともに換気を行う。
- 環境に対する注意事項 : 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないよう  
にする。
- 封じ込め及び浄化の方法  
及び機材 : 不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器  
に回収する。  
多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。
- 二次災害の防止策 : 漏出物を回収する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策 : 煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠  
ざげること。禁煙。
- 局所排気・全体換気 : 屋外または換気の良い場所で使用すること。  
注意事項 : 皮膚に触れないようにする。  
眼に入らないようにする。  
使用後、容器を密栓すること。
- 安全取扱注意事項 : 使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。  
屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 接触回避 : 強酸化剤との接触を避ける。

## 保管

- 適切な保管条件 : 容器は密栓して、直射日光や火気を避け、冷暗所に  
保管すること。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
酸化剤から離して保管すること。  
施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料 : データなし。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : データなし。  
許容濃度  
ACGIH TLV-STEL : 1000ppm (エタノール)

	TLV-TWA	:	200 ppm (イソプロピルアルコール)
	TLV-TWA	:	100 ppm (ノルマルプロピルアルコール)
設備対策			適切な換気のある場所で取扱う。
保護具			
呼吸器の保護具		:	呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具		:	保護手袋を着用すること。
目の保護具		:	保護眼鏡。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態、形状、色など	:	赤紫色の液体。
臭い	:	無臭。
融点・凝固点	:	データなし。
沸点、初留点及び沸点範囲	:	データなし。
可燃性	:	データなし。
爆発下限界および爆発上限界／	:	データなし。
可燃限界		
引火点	:	データなし。
自然発火点	:	データなし。
分解温度	:	データなし。
pH	:	5.0～5.5
動粘性率	:	データなし。
溶解度	:	水に可溶。
n-オクタノール／水分配係数	:	データなし。
蒸気圧	:	データなし。
密度および／又は相対密度	:	データなし。

## 10. 安定性及び反応性

反応性	:	データなし。
化学的安定性	:	通常取り扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	:	データなし。
避けるべき条件	:	直射日光、加熱、高温、着火源（裸火、火花など）を避ける。
混触危険物質	:	強酸化剤。強酸。強アルカリ。
危険有害な分解生成物	:	炭素酸化物。

## 11. 有害性情報

急性毒性	:	データなし。
皮膚腐食性／刺激性	:	データなし。
目に対する重篤な損傷性／	:	データなし。
眼刺激性		
呼吸器感受性または皮膚感受性	:	データなし。
生殖細胞変異原性	:	データなし。
発がん性	:	データなし。
生殖毒性	:	データなし。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	データなし。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	データなし。

誤えん有害性 : データなし。

#### 配合成分「エタノール」に関する情報（GHS分類）

目に対する重篤な損傷性/目刺激性：区分2B

ウサギを用いた2つのDraize試験（OECD TG 405）において、中等度の刺激性と評価されている（SIDS（2005））。

発がん性：区分1A

エタノールはACGIHでA3に分類されている（ACGIH（7th, 2012））。また、IARC（2010）では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされている。

生殖毒性：区分1A

ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている（PATTY（6th, 2012））。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分3

ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている（PATTY（6th, 2012））。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）

ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する（DFGOT vol.12（1999））。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある（HSDB（Access on June 2013））。

#### 配合成分「イソプロピルアルコール」に関する情報（GHS分類）

目に対する重篤な損傷性/目刺激性：区分2

ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告がある（EHC（1990）、SIDS（2002）、PATTY（6th, 2012）、ECETOC TR48（1998））。

生殖毒性：区分2

ラットの経口投与による2世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある（IARC 71（1999）、EHC 103（1990））が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による2世代試験では親動物に一般毒性影響（肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加）が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている（PATTY（6th, 2012））、SIDS（2002））。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響（体重低値、骨格変異）が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性（不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少）がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている（PATTY（6th, 2012））。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分1（中枢神経系、全身毒性）、区分3（気道刺激性）

SIDS（2002）、EHC 103（1990）、環境省リスク評価第6巻（2005）の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制（嗜眠、昏睡、呼吸抑制など）、消化管への刺激性（吐き気、嘔吐）、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性（咳、咽頭痛）を示す（EHC 103（1990）、環境省リスク評価第6巻（2005））ことから、気道刺激性を有する。

特定標的臓器毒性（反復暴露）：区分1（血液系）、区分2（呼吸器、肝臓、脾臓）

ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m<sup>3</sup>（ガイダンス値換算濃度：0.067 mg/L/6 hr）以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m<sup>3</sup>（ガイダンス値換算濃度：0.33 mg/L/6

hr) 群では呼吸器(肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた(EHC 103 (1990))。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分2のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている(SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012))。

配合成分「ノルマルプロピルアルコール」に関する情報(GHS分類)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分1

ウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁および潰瘍形成が認められた(ACGIH (2004)、PATTY (5th, 2001))との報告があること、及びEU分類ではXi;R41とされている。

生殖毒性：区分2

ラットを用い、雄は6週間吸入ばく露後に非ばく露の雌と交配、雌は妊娠1日目～9日目に吸入ばく露を行った試験において、母動物の体重増加抑制や摂餌量の減少など一般毒性の発現用量で、雄の生殖能低下(ACGIH (2007))、吸収胚の顕著な増加(環境省リスク評価(第6巻、2008)、PATTY (5th, 2001))が報告されている。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分3(麻酔作用、気道刺激性)

マウスで吸入ばく露により深い麻酔を起こしたとの報告(EHC102 (1990)、PATTY (5th, 2001))があり、ウサギで経口投与による麻酔作用のED50値は1440 mg/kg bwとの記載(EHC102 (1990))。また、ヒトにおける刺激性(目および鼻)を示す閾値は4000～16000ppmとされている。なお、単回ばく露後の主要な毒性影響は中枢神経系の抑制である(EHC102 (1990))と記述され、また、唯一ヒトの中毒事例として、化粧品調製剤に溶剤とし含まれる本物質約半リットルを摂取後、意識消失を起こし4～5時間後に死亡したとの報告(EHC102 (1990))があるのみで、その他には有害影響の報告はない。

## 1.2. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)： データなし。

水生環境有害性 長期(慢性)： データなし。

残留性・分解性： データなし。

生体蓄積性： データなし。

土壤中の移動性： データなし。

オゾン層への有害性： データなし。

## 1.3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- 汚染容器および包装： 容器は清浄にして関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1.4. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号： 1170

国連品名	:	エタノール又はその溶液（アルコールの含有率が24容量%以下の水溶液を除く。）
国連分類	:	クラス3（引火性液体類）
容器等級	:	III
国内規制		
陸上規制情報	:	消防法、道路法の規定に従う。
海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	:	127
特別の安全対策	:	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、落下、荷崩れしないように積み込み、漏れのないことを確認する。

---

#### 1.5. 適用法令

消防法	:	非該当（本製品はアルコールを配合するが、アルコール濃度60%未満なので、消防法 危険物 第4類 アルコール類には該当しない。）
労働安全衛生法	:	名称等を表示すべき危険物および有害物、名称等を通知すべき危険物および有害物（法第57条・第57条の2、施行令第18条・第18条の2）
毒物劇物取締法	:	非該当
船舶安全法	:	危規則第2,3条危険物告示別表第1 引火性液体類
航空法	:	施行規則第194条危険物告示別表第1 引火性液体類

---

#### 1.6. その他の情報

##### 記載内容の取扱い

本データシートの記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

また、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではなく、注意事項は、通常の手配を対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

##### 参考文献

- ・製品評価技術基盤機構 GHS分類
  - ・GHSに基づく化学品の分類方法（JIS Z 7252:2019）
  - ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）（JIS Z 7253:2019）
  - ・メーカーSDS等
-